

春風秋霜 1月号

令和8年1月19日
島田市教育委員会日より
教育長 山中史章

春風をもって人に接し、秋霜をもって自らを慎む 佐藤一斎

1 新年、あけましておめでとうございます

新年あけましておめでとうございます。私たちが普段「今年の干支は？」と言う時は、十二支だけを指すことが多いのですが、本来の干支は、古代中国で生まれた十干（甲、乙、丙・・・）と、十二支（子、丑、寅、卯、辰、巳・・・）を組み合わせ、60通りの組み合わせを考えます。今年の干支である丙午（ひのえうま）は、「丙」が陽の火、「午」も日の属性を持つということで、60の干支の中でも特にエネルギーが強く「火」に関係すると言われています。また、闇が晴れて隠れていたものが白日のもとにさらされるような大きな変化が起こりやすいと言われています。

教育委員会としても、未来に活躍する子供たちの心に火をつけて、多くの子供たちが活躍できるように、島田市の教育行政を安定させていきたいと思います。

みなさま、本年もよろしくお願いいたします。

2 AIの進歩によって、将来なくなってしまう職業について考えました。

最近のAIの能力は、日々進歩を遂げており、無料のAIを使っても、絵を指定通りに作成したり、写真を使ってイラスト風に加工してほしいと指示すれば、そのように加工してくれたりします。もっとすごいのは、AIを使って、ビデオを作ったり、歌を作ったりすることができるようになりました。これまでは、特別な技術を持った人でしかできなかった動画作成や作曲をAIが人間の代わりにやれるようになってきたわけです。自動車などの自動運転技術も進んでいます。これからの世界はどうなっていくのでしょうか。

子供たちが活躍する未来の話ですから、我々としては、大変気になるところです。これからどのような人材が必要とされるのかは、教育を考える上でとても大切なことだと考えます。

インターネットやYouTubeなどで調べると、今後なくなることが予想される仕事や、今後残るだろうと予想される仕事が出ています。今から10年ほど前に、今後なくなると予想された仕事（AIとは、関係ないのですが）として、高速道路などで料金を受け取る人やスーパーマーケットでレジを打つ人が挙げられていました。振り返ってみると、確かにそのような仕事は少なくなっています。今後、AIがさらに進歩することによって、データ入力や翻訳、チラシの素材制作や、簡単なデザインなどは、人間がやらなくてもよくなりそうな分野だと思われます。

一方で、人間にしかできない仕事はこれからも残りそうです。アート制作、戦略的な思考、哲学や倫理の判断などは、まだ人間が比較的得意な領域です。また、医療や教育など、人々との対話や感情理解を伴う業務へのAI導入には限界がありそうです。AIと人間が協力する形で新しい職業や役割が生まれる可能性も高くなりそう

です。これからの技術の進歩と合わせて、これからの世界をしっかりと見ていきましょう。

肘かけ椅子

「国宝親た ！ ？」

教育総務課長 曾根一也

NHK大河ドラマ「豊臣兄弟！」が始まりました。戦国三英傑の一人、豊臣秀吉の弟、秀長を主人公としたドラマです。私が歴史に興味を持つようになったきっかけは、小学生のころに初めて読んだ伝記「豊臣秀吉」で、最下層の身分から太閤と呼ばれるまで出世した物語にワクワクし、憧れを感じたものでした。そのようなこともあり、三英傑の中では、今でも豊臣秀吉が好きです（ダークな部分も知られてきていますが）。記された物語の中で戦国の世を駆け抜ける秀吉をはじめとする武将の姿を想像するにつけ、歴史への好奇心が駆り立てられました。そして、小中学校では「社会」の授業が大好きでした。栄枯盛衰。歴史というものが単なる過去の出来事をなぞるものではなく、人々の努力や知恵、夢が込められた物語であることを教わり、その魅力に引き込まれました。

そんな中で、訪れたいと思っていた場所がありました。それは「白鷺城」の異名を持つ姫路城と、黒い趣を持つ松江城。姫路城は国宝であり、世界遺産としても知られ、その美しい白い漆喰壁が特徴の城です。一方、松江城も国宝に指定されており、木造建築の美しさを今なお保ち続ける、黒が際立つ城です。両方とも歴史的な重要人物たちが築き上げた名城でありながら、その雰囲気は好対照をなしています。

姫路城は戦国時代に整備された城で、現在のものは徳川家に従った池田輝政が築城し、白漆喰を使った堅牢な壁が特徴です。美しく優雅な天守閣の姿に、戦のために造られたということを忘れてしまうほど感激しました。

一方、松江城は江戸時代初期の築城ですが、石垣や建物の黒で統一された重厚なデザインに硬派な武家らしさを感じました。

黒い城は豊臣時代、白い城は徳川時代と思っていましたが、壁の造りの違いのようで、どうやら勘違いだったみたいです。

私がこの二つの城を訪れて感じたのは、ただ美しい城郭建築の違いを楽しむというだけでなく、それぞれの歴史的な背景、そしてその時代を生きた人々の想いを感じ取る旅になったことです。同じ日本国内にありながら、城一つとってもこれほど違いがあるという面白さに出会えたことは、何より最高の瞬間でした。

皆さんもぜひ、歴史の魅力を発見し、心に刻んでみてはいかがでしょうか。

あっ、映画はまだ見ていません。



< 姫路城 >



< 松江城 >